令和5年度　ふくしま高校生 社会貢献活動コンテスト本選

報 告 書

2023年9月9日、福島市の自治会館で「令和5年度 ふくしま高校生 社会貢献活動コンテスト」本選が開かれました（主催：福島県教育委員会・一般社団法人ふくしま学びのネットワーク（運営事務局）、共催：福島大学アドミッションセンター）。今年度の本選は３年ぶりの対面開催でした。予選の書類審査を通過した県内各地の12グループが、自分たちが行っている社会貢献活動について発表しました。

福島県内の高校生の社会貢献活動はとても活発で、主体的な課題発見・解決型の探究学習や、サービスラーニング（活動を通じた学び）としても注目されています。報告書では、本選出場グループの活動をご紹介します。

活動紹介

グループ名 〉 **会津支援学校高等部 作業班に分かれた学習「クリーン班」**

活 動 名 〉 **クリーン班校外清掃**

同校高等部では「職業科」の授業で7つの作業班に分かれ、週に6時間の学習に取り組み、働くことの意義や働くために必要な知識・技能・態度を学んでいます。また年5回の「一日作業日」があり、「クリーン班」では地域での清掃活動を行っています。

クリーン班には1年生から3年生までの10名が所属。それぞれの役割を果たしながら、学校内外の清掃活動を行います。毎回の清掃活動では学習ノートを使い、目標や反省点を記録するほか、正確な作業のためのメモとしても活用しています。

学校外では福島県会津自然の家や会津若松駅、福島県立博物館などの清掃活動を行い、地域の一員として活躍しています。清掃後には多くの方から感謝の言葉を頂きました。また、地元の清掃業者の方による清掃講習会も受講し、専門的な道具を使いこなす姿に憧れを抱きながら、真剣に学びました。地域の一員としてのこれらの活動を通し、「自分たちは支えてもらうだけでなく、誰かのために役に立つことができる」と実感することができ、もっと技術を向上させたいという意欲に繋がっています。

活動紹介

グループ名 〉 **あさか開成高校 3.11 未来への希望**

活 動 名 〉 **語り部活動**

12年が経過し、東日本大震災と原発事故の記憶・想いの風化が課題になっていると感じた生徒たち。メディアでの震災報道の減少や、語り部の高齢化などが進む中、震災と原発事故を経験した福島だからこそ、そこで得た教訓や当事者の思いを学び、語り伝えなければならないと考えました。震災を「学ぶ」こと、県内外・海外に「伝える・広める」ことを柱に活動しています。

「富岡町3.11を語る会」の皆さんなどから震災当事者の思いを知る活動を継続しています。同会が主催し、富岡町で開催された「伝承祭」にも参加し、多様な取組を学びました。また学年行事として行われた震災遺構見学のバスツアーでは、ガイドを担当しました。

実際にガイドをやってみて「伝えることの難しさ」を実感しましたが、広島県の「ひろしま紙芝居村」や兵庫県の「1.17希望の架け橋」などとの交流を通じ、当事者でない自分たちだからこそ伝えられることがあると学ぶことができました。その後も県内外や海外の多くの高校への発信・交流を続け、活動の輪は大きく広がっています。

活動紹介

グループ名 〉 **あさか開成高校 Lake Inawashiro is No.1**

活 動 名 〉 **猪苗代湖の水環境保全活動 ～猪苗代湖の魅力を発信!!～**

自分たちの学校の水源地である猪苗代湖でのボランティア活動を行っています。湖に繁茂するヒシやヨシの刈り取り、湖岸清掃や漂着水草回収作業です。ヒシ刈り・ヨシ刈りなど実際の活動とあわせて、水草と水質の関係について学ぶ学習も行っています。実際に活動することで、ボランティアの高齢化や人手不足などの課題を知り、活動を継続することの重要性を学んでいます。

猪苗代湖の活動で学んだことを『ふくしまSDGs博』や環境イベントなどで発表しました。さらに猪苗代湖の水や安積疎水、地元の食材などを使った料理レシピが各種コンテストで入賞、猪苗代湖の魅力をPRするため和菓子を考案し商品化と販売も行いました。またオンラインを活用した大会で、県外や海外の人たちにも活動について発表しています。『世界合同プレゼンテーション』では、台湾やフィリピンの高校生にも興味を持って聞いてもらうことができ、三位という高い評価を得ることができました。

「猪苗代湖をもう一度、水質日本一にしたい。そのために高校生の自分たちにできることは何かを考え、行動していきたい!」と生徒たちは力強く語ってくれました。

活動紹介

グループ名 〉 **アスパラ（学校の枠を超えたグループ）**

活 動 名 〉 **備えるキャンプ そなキャン**

白河実業高校と光南高校の生徒たちによる、白河市地域づくり活性化支援事業を活用した活動です。活動の舞台は、東日本大震災時の地滑り被災地跡につくられ、災害を後世に伝え防災拠点となることを目的に整備された「葉ノ木平震災復興記念公園」。かまどベンチややぐらテントなどの防災設備があるものの、地元住民に使われておらず、設備の使い方も知られていないという課題がありました。そこで地域住民が気軽に参加でき、防災について楽しく学べるイベントとして、防災キャンプ「そなキャン」を企画・実施したのです。イベントのチラシ制作や自治会・市役所などとの打合せも自分たちで行いました。

2022年11月に実施した「そなキャン」には、あいにくの雨模様の中、約45名が参加。県南建設事務所の方からの講話や消防士の方々による応急処置・心肺蘇生などの講習、かまどベンチを実際に使用したカレーの炊き出し、テントの設営、防災グッズの使用体験など盛りだくさんの内容を、高校生の手によって運営しました。実際の活動を通し、防災に市民みんなで参加できる仕組みの必要性など、多くのことを学びました。

活動紹介

グループ名 〉 **ありがとうを伝えよう実行委員会**

活 動 名 〉 **Let's say "Thank you" ～ありがとうを伝えよう～**

白河高校3年生による個人の活動です。感謝を伝えることはとても良いことだと知ってもらい、感謝を伝えた時の嬉しい思いが次から次へと広がり、たくさんの人が幸せになることを目標に活動しています。白河市のコミュニティカフェ・EMANONでアドバイスをもらい、やりたいことを100個リストアップしたのが活動のきっかけでした。

地元の矢祭町で「ありがとう」の連鎖をつくるため、地域おこし協力隊の方にも相談し、町の文化祭を訪れた人に「ありがとうカード」を書いてもらい掲示しました。日頃なかなか伝えられない感謝の気持ちのカードが30枚以上も集まりました。幅広い年代の方が参加してくれましたが、対象が広すぎたこともあり、目的を伝える点に難しさが残りました。

そこで二回目は、矢祭小学校6年生を対象に、卒業を機に6年間ともに過ごした友人たちに「ありがとう」の気持ちを伝えてもらうため、画用紙に感謝の寄せ書きをしてもらいました。活動の目的も先生を通じて伝えることができました。これらの活動を通し、ありがとうの連鎖は一通りではないという新たな気づきを得ることもできました。

活動紹介

グループ名 〉 **いわき湯本高校 生徒会**

活 動 名 〉 **いわきの震災と復興を県内外に語り継ぐ**

県教育委員会の「震災と復興を未来へつむぐ高校生語り部事業」に参加しています。震災復興に関する地域課題探究活動を通して、福島における震災、復興、そして未来について、自分の言葉で語ることのできる高校生を育成することを目的とする事業です。

いわき・ら・ら・ミュウやいわき震災伝承みらい館での展示見学と研修を通じ、震災時の状況や伝承の現状を学びました。語り部の高齢化が進んでいると知り、若い語り手育成の必要性を感じました。

いわきを訪れた東京の高校生との交流では班別のディスカッションも行い、震災当時や現在のいわきについて話し合いました。東京の高校生からは福島の現状についての率直な質問があり、こちらからも東京の高校生の意見を聞くことができました。

その後も双葉町の東日本大震災・原子力災害伝承館見学や、旧湯本高校の被災状況について調べる活動を続けています。記憶の風化が進む中、震災学習で学んだことを県内外に発信し、また市内では防災教育に取り組んでいきたいと考えています。

活動紹介

グループ名 〉いわき湯本高校遠野校舎 A New Breeze from 遠野

活 動 名 〉思いをつなぐ遠野和紙継承活動 ～遠野校舎から本校舎へ～

遠野高校は2022年に湯本高校と統合し、いわき湯本高校遠野校舎となりました。2024年3月には遠野校舎も役目を終えます。

遠野高校時代から地域の方々の協力を得ながら、遠野和紙の継承活動に取り組んできました。和紙の原料となる楮やトロロアオイを校庭の一角で栽培し、和紙になるまでの工程を体験し学んでいます。また、遠野和紙に関わるイベントにも協力してきました。毎年冬には3年生が、自分たちの卒業証書の紙漉きを行っています。

活動は、遠野和紙について「理解する」「体験する」「発信する・本校舎に伝える」の三つです。特に後者の二つは生徒たちが主体となり、栽培における芽欠きや除草と収穫、和紙の原料づくりや紙漉き体験など精力的に取り組みました。そして本校舎にもトロロアオイの畑をつくり、遠野和紙を本校舎にも継承していくことができました。

最後の卒業生となる3年生たちは「遠野和紙で作った卒業証書の重みを感じ取ってもらいたい」という思いを胸に、残った期間も活動を続けると力強く発表してくれました。

活動紹介

グループ名 〉白河鉄道BIG4（学校の枠を超えたグループ）

活 動 名 〉Spread Shirakawa Railway

学法石川高校の生徒たちを中心に結成されたグループです。市の地域づくり活性化支援事業を活用し、白河駅周辺を再現したジオラマや写真展示を通して、あまり知られていない白河の鉄道の魅力を市民や観光客に発信しました。コロナ禍によって元気のなくなった白河の街に活気とにぎわいを取り戻すことが目標です。

国鉄時代は主要駅だった白河の駅舎は100年の歴史を誇ります。生徒たちは3m×12m（およそ3畳分）の大きさで白河駅舎と駅前の街並みを再現するジオラマを作成し、地元の大統寺で行われる鉄道模型運転会や市立図書館で展示を行いました。また、白河市の古写真や鉄道の写真もあわせて展示しました。県内外からたくさんの方が展示を見に訪れ、メディアにも大きく取り上げられました。

生徒たちは活動を通して計画の重要性を学び、「期限に間に合わない」「情報共有が少ない」などの課題を自分たちでクリアしていきました。多くの人の協力を得て完成したジオラマ展示。コンテスト当日にも実物の一部を持参し、大きな注目を集めていました。

活動紹介

グループ名 〉 **平工業高校 生徒会**

活　動　名 〉 **20年以上続く私達生徒会の社会・国際貢献活動**

「すべては喜んでくれる人たちの笑顔のために」を活動理念に、長期間にわたって社会・国際貢献活動を行っています。コンテストでは「小さなことから始まる社会革命」と題し、①持続可能な社会のために日常生活のもったいないを生かす取り組み、②地域と学校との交流を深める取り組み、③地球温暖化防止の取り組みについて報告してくれました。

20年以上続くアルミ缶回収による車椅子寄贈では、これまでに14.5トン、80万個以上のアルミ缶を回収。45台目となる車椅子を老人ホームに寄贈しました。アフリカのマリ共和国へジャージや運動靴を贈る活動ではこれまでに1万点以上の物資を支援しています。ペットボトルキャップ回収による世界の子どもたちにワクチンを贈る活動では、2481人分のワクチンを寄贈することができました。

他にも「ふくしまゼロカーボン」への取り組みや、緑化委員会との連携した活動、木のぬくもりを感じ、想像力を高める子供用おもちゃの作製と保育所への寄贈など、活動は多岐にわたります。先輩が始めた活動を継承し、続けることの大切さを熱く語ってくれました。

活動紹介

グループ名 〉 **田村高校 みはる助っ人隊**

活　動　名 〉 **三春産ブルーベリーを使った6次化商品開発**

三春町といえば滝桜が有名ですが、実はブルーベリーなども特産です。しかし三春産ブルーベリーの知名度はまだ高くないため、SNS映えするスイーツ開発を行い、三春町のPRを考えました。

まずは自分たちでレシピを考え、町役場やまちづくり公社に相談。レシピをもとに、三春ブルーベリー倶楽部さん、株式会社かんのやさんと協議を行い、スイーツの開発に取り組みました。商品を包むフィルムに貼るシールも高校生がつくり、女子高校生のイラストと「田村高校コラボ」の文字を入れました。試作と試食会を経て改良を行い、三春ブルーベリーのオムレット「わんだふる」とロールケーキ「和（なごみ）」が完成。販売会では生徒たちも店頭に並び、1時間ほどで完売となる大盛況でした。

販売会ではアンケートも実施し、結果を町長や町役場の方などに報告するとともに、今後の計画を練りました。その後も「コミュタン福島」など様々な場所で販売を継続し、先輩から後輩へと三春町活性化の情熱を引き継いでいます。

活動紹介

グループ名 〉 **ふたば未来学園高校 社会起業部**

活 動 名 〉 **語り部活動を通して過去と未来を考える**

社会起業部では「知る」「伝える」「盛り上げる」を軸に、実際に現地を歩く、事実を自分たちの言葉で伝える、福島と他の地域を比較するなどの語り部活動を行っています。活動の目的は、①東日本大震災を風化させないように無知・無関心な人たちの知るきっかけになりたい、②正しく福島を知ってもらいたい、の二点です。

知る活動では、震災で過疎化が進んだ広野町の限界集落への訪問や、宮城県の津波被災地での研修・同世代語り部との交流などを実施。伝える活動では県外の高校生・大学生との交流会に加え、実際に双葉郡を案内することもあります。沖縄研修では街中で自分たちの活動を発信したほか、福島の原発と沖縄の基地問題を比較する対話も行い、多くの共通点があることも学びました。盛り上げる活動としては、県内のテレビ番組と協働し、自分たちで撮影した広野町のPR動画を放送してもらいました。双葉郡のバスツアーも実施しました。

震災当時5歳だった生徒たちは「震災を知る最後の世代」として、震災を経験していない次世代や県外の方に記憶を伝承していきたいと、思いを発表してくれました。

活動紹介

グループ名 〉 **本宮高校「総合的な探究の時間」はたらく【石焼き芋班】**

活 動 名 〉 **「日本一美味しい焼き芋」を作り本宮市を盛り上げ本宮をもっと好きになる。**

同校では総合的な探究の時間を「ミライ・ラボ」と呼び、「本宮をもっと好きになる」ことをテーマに様々な分野に分かれて活動に取り組んでいます。はたらく分野・石焼き芋班では本宮近郊のサツマイモを使い、「日本一美味しい焼き芋」をつくって本宮市を盛り上げるため、地域の方々と協働して活動しています。

インターネットを活用して石焼き芋について調べ、まずはダッチオーブンで挑戦。生徒の試食で人気の高かった品種で焼き芋をつくることにしました。生徒のおじいさんがつくってくださった焼き窯とリヤカー（総重量400kg）を使い、焼き芋の達人から作り方を教わります。たくさんの方の協力を得た準備を経て、いよいよ販売です。本宮駅前やしらさわ秋まつりなどで販売した、高校生たちの焼き芋は大好評。高校に販売の問合せがあるほどの反響で、市の公式LINEが今後の販売日程を告知してくれることになりました。

2023年度は本宮若手農業団の方から全面的な支援を頂き、純本宮産の芋を使った石焼き芋づくりを目指しています。

コンテスト本選では各グループのプレゼンテーションと、審査員の先生方からの質疑応答が行われました。久々の対面開催となり、地域や社会の課題を高校生の力で解決したいという熱い思いがダイレクトに伝わる本選となりました。審査員の先生方による厳正な審査の結果、別表の通り各賞が決定しました。
受賞者には賞状および副賞が贈られました。みなさん、本当におめでとうございました!

令和5年度 ふくしま高校生社会貢献活動コンテスト 本選結果

福島県教育委員会より

最 優 秀 賞

- 本宮高校「総合的な探究の時間」はたらく【石焼き芋班】

優 秀 賞

- アスパラ（学校の枠を超えたグループ）
- いわき湯本高校遠野校舎　A New Breeze from 遠野
- 白河鉄道BIG4（学校の枠を超えたグループ）

入 選

- 会津支援学校高等部作業班に分かれた学習「クリーン班」
- あさか開成高校　3.11 未来への希望
- あさか開成高校　Lake Inawashiro is No.1
- ありがとうを伝えよう実行委員会
- いわき湯本高校 生徒会
- 平工業高校 生徒会
- 田村高校 みはる助っ人隊
- ふたば未来学園高校社会起業部

福島大学アドミッションセンターより

福島大学アドミッションセンター長賞

- あさか開成高校　Lake Inawashiro is No.1
- ありがとうを伝えよう実行委員会
- 平工業高校 生徒会

社 会 貢 献 賞

- 本選出場の全グループ

令和５年度 ふくしま高校生 社会貢献活動コンテスト本選 報告書（2024年２月発行）
主催　福島県教育委員会、一般社団法人ふくしま学びのネットワーク（運営事務局）
共催　福島大学アドミッションセンター
※本報告書 PDF 版は「ふくしま学びのネットワーク」公式サイト（https://www.fks-manabi.net/）からダウンロードできます。